

のまきを得て、更に松風心に興すること尋常に倍せり。夫曾てもとめたるにあらず、只雅丈の深志にあれば也。仍其時詞を述むと欲すれど、短才いかむともあははず。但其及ばざるをもて及ぼさむとするは、愚なる身のまたまことならむかしといふことになむ。

かしこさのころもふかき比も惚ばしく、且はなからん跡のおもひをもかけそへて、御ことの葉の露のはかなきをくはへて、あさはかなる水ぐきの跡とよめ侍るならんかし。

神無月廿餘日、忍の岡のほとりにして書付侍りぬ。

露霜のふりにし方のことの葉を更に忍の岡のへのまつ言の葉にむすびし露の跡とめて又水ぐきを染るはかなさ七とせふりにしかども今もなほまきく心地する宿の松風今はとてたちし昔の玉琴のおもひしられし夜半の松風貞享二年小春下浣藤原昌興書

一、花木海味録 稻石水翁新井雄録。

楓

南方草木狀云。楓香樹似白楊。葉圓而岐分。有脂而香。其

子大如鴨卵。二月華發。乃著實。八九月熟。曝乾可燒。惟九真郡有之。

花鏡云。楓葉小有三尖角。枝弱善搖。二月開白花。旋即著實。圓如龍。眼上有芒刺。但不可食。且不中看。惟焚作香。其脂名白膠香。一經霜後。葉盡赤。故名丹楓。秋色之最佳者。漢時殿前皆植楓。故人號帝居爲楓宸。

按楓樹。此未見有之。薩摩州地面。當有是木。世間相承。以革異鐵名楓眼也。

革異鐵

有纏竹窓者。嘗在長岐。取革異鐵枝葉。問之漳州人。其人寫機樹二字以答之。然機樹之名。未見有出於紀載之中者。豈此有而彼中不之或庶。漳州人亦實不識之。漫擬其名也。抑有之而其所載者。未能得而考之耶。聞見之陋。可勝嘆哉。是樹種類甚衆。其綠葉重々如翠雲。經霜色赤。爛然似錦。則一也。秋色之絕妙者。惜其名之未詳。因命之曰慶雲之樹。曰五采之樹。以俟他日考證也。又隨其別。則有春發翠葉如火者。名紅雲。有紫赤色者。名紫雲。有葉邊如朱者。名錦邊。又名雲錦。秋深有葉黃

者。名黃雲。有其葉一丹一黃者。名二色雲。有滿樹如紅霞者。名丹木。餘未能盡名。

櫻桃

群芳譜云。櫻桃其木多陰。不甚高。春初開白花。繁英如雪。香如蜜。葉圓有尖及細齒。結子一枝數十顆。圓如珊瑚。極大如彈丸。小時青。及熟色鮮瑩。深紅者爲朱櫻。紫色皮內有細黃點者爲紫櫻。核細而肉厚者爲崖蜜。味甚甘美。尤難得。名花譜云。櫻桃樹多枝葉。花似桃。差小而色嬌紅。一顆五六花。如垂絲然。粉妝輕約。香韻俱勝。夏初結實。縣如火樹。凡花勝者。果多無色。此獨兩擅。按櫻桃。即油事類也。俗以素古頓名櫻桃。非是也。

素古頓

黃檗唐僧以素古頓爲海棠。蓋以是花爲垂絲海棠之別。而枝梗略堅。故去垂絲二字。以海棠呼之耳。恐非有考其正名者也。夫淨屠氏之說。晨夕所講究。當有過於人而博物自非其所學也。況又皆少時渡海歸化。故在彼中有識之者無幾也。人見其爲唐僧。而每一聞其說。信以爲然過也。遍歷見志傳所載眞海棠。即今南京海棠是也。西府海

棠。今單稱海棠者是也。貼梗海棠。俗名復傑者是也。四季海棠。即貼梗之別也。木瓜海棠。似貼梗花色粉紅。結實如木瓜。藥中木瓜與此又異也。山海棠即棠梨花也。帶子海棠。疑即今彼岸素古頓是也。垂絲海棠。今絲素古頓是也。草本一種八月春名秋海棠。亦名垂絲海棠。見興化府志。重葉海棠。千葉海棠。香海棠。未睹之。南海棠。嬌海棠。黃海棠。不詳。

垂絲海棠

海棠譜云。海棠。今江浙間。別有一種。柔枝長帶。顏色淺紅。垂英向下如日蔭者。謂之垂絲海棠。全與此不相類。蓋強名耳。

洛陽花木記云。垂絲海棠名軟條。

致富全書云。海棠多葉粉紅者。曰垂絲。水雲錄云。垂絲海棠。柔枝長帶。垂英向下是也。此花既多葉而色尤嬌。石湖以爲類小蓮花。信然。

江陰縣志云。海棠粉紅長帶名垂絲。按垂絲海棠花。有單葉多葉二種。

荻